

看護学科 2021 年度学修状況のご報告

前期は対面授業を中心に、一部オンデマンド授業を実施しています。去年に比べて学生の顔や行動が見える状況でしたので、理解度や集中度などを確認しながら授業を進めることができました。10月14日までオンデマンド授業中心でしたが、それ以降対面授業中心となっています。

一部の学生で学習習慣が定着しにくい状況がみられ、指導、学習サポートを行いました。前期必修科目の単位未修得者（留年決定者）が去年より若干多く出ました。

演習については、授業よりさらに感染対策を強化し可能な限り実施しています。人数の制限から通常の倍の授業を行わなければならない、大変な状況ですが、学生がリアルな体験を通してより実践的な学びができるようにしています。

実習については、緊急事態宣言、コロナ患者発生状況から、実習受け入れ中止が相次ぎ、学内での実習を余儀なくされています。一部の病院では十分な感染対策を行いつつ、実習が行えたところもありますが、特に4年生は臨地での実習経験が非常に乏しい状況での卒業となる見込みです。学内の実習で可能な限り臨地の状況を再現しての実習ができるよう、シュミレーションモデル等を活用し実施しております。1～3年生は7月から後期にかけて実習が予定されていますが、第5波の影響、ならびに第6波への備えなどから病院での実習が制限されているため、受け入れ可能な病院を探し、臨地での実習を行っています。ただ学内実習は、臨地への移動による負担がないこと、緊張度の軽減など学生にとってメリットとなる部分もあり、じっくりと自分の未達成の課題に取り組んでいるとの意見も学生から出ています。臨地、学内それぞれの実習のメリットを最大限にできるよう教員一同、取り組んでおります。

コロナ感染対策はより強化しています。学生たちにも感染対策方法が定着されてきましたので、健康管理シートに基づく体温測定、症状チェック、体調不良時の報告ならびに行動、アルコールによる手指消毒（保護者会寄贈品も活用）もとれるようになっていきます。黙食の徹底、使用箇所の消毒もできていることから、クラスターなどは発生しておりません。

実習施設受け入れの条件として、PCR検査が必要とされるところがありますが、大学側で予算化されているため、また東京都看護協会の無償支援事業を活用しているため、学生個人の経済的負担はなく実施できています。

学生生活については、定期的なクラスルーム、クラスアドバイザーの面接などによりフォローしています。学生支援グループ、進路支援対策委員会を中心に、進路ならびに就職支援を行い、現時点で4年生は96%近く、就職、進学が決定し、残りの学生数名も希望病院への就職試験を準備しています。卒業生の応援も受けながら、保健師課程の説明、相談を受けられる保健師座談会も対面で実施しています。